



オーストリア国家公認ガイド

今井 謙

(日独協会会員・オーストリア国家公認ガイド・ツアーコーディネーター)

日本入国時にコロナの措置が求められなくなり、そろそろ海外旅行を検討される方もいらっしゃる時期なのではないかと思います。ご旅行先はヨーロッパでしょうか？

ドイツをはじめ様々な魅力的な国がありますが、今日はその中でもドイツのお隣の国、音楽の都

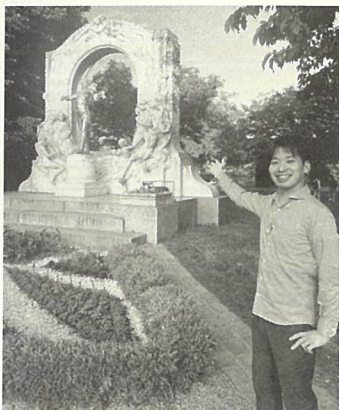
ウィーンで有名なオーストリアの国家公認ガイドの話にお付き合いいただければ幸いです。

実はオーストリアにおいて、ガイドになる為には国家公認資格が必要になります。まず国が定めたガイド学校に1~2年通い卒業後、さらに国が定めた国家試験3種類の試験(筆記試験、口頭試験、実地試験)に合格する必要があります。つまり、卒業証+3種類の合格証が職業の申請に必要となります。ルールを守らずにガイディングを行うと罰金や場合によっては数年間オーストリア入国禁止という非常に厳しい罰が与えられます。

私がガイド資格を取ろうとしたきっかけは旅行関係の仕事に就いた際に国家公認ガイドの存在を知ったことです。そこからなんとなく興味があったものの始めるのにはハードルが高く、「いつかできたらいいな」程度に考えていました。突然3年前に新型コロナウイルスが世界中で大流行し、旅行業界は壊滅状態。そのタイミングで国家公認ガイド資格の事を思い出し、ガイド学校に行く決断しました。

一番大変だったのはガイディング練習でした。実践形式にする為、集合場所だけ決められ、指名された人がガイディングを始めて、終わりの合図があれば次の人に交代するものでした。試験範囲はウィーンなので準備するだけでも膨大な量ですし、いつ当てられるかもわからず、常に緊張感を持っていました。日本語でも難しいのにドイツ語で人前に立ち話をしなければいけませんでした。最初は緊張もあり全く上手くいかずに、その後何度も練習を重ね試験に挑めるレベルまで到達しました。

卒業後、国家試験に挑みましたが、その中でも印象に残っているのは実地試験です。試験の中でも特に難関で、試験官によっては合格率が半分以下にな



ようこそ、ウィーンへ！

る様な場合もあります。内容的には約15分バス観光、約15分徒歩観光、約15分入場観光で試験範囲はウィーンの中すべてになります。実際にどこになるのかは当日その場にならないとわかりません。運の悪いことにその厳しいと言われる試験官に当たってしまったので、ダメかもしれないと思いながらも何かしゃべり続けることを意識して試験に臨みました。

入場観光はシェーンブルン宮殿のマリー・アントワネットの部屋で当たりました。他にもバス観光、徒歩観光を行い、試験後は結果発表を待ちました。参加者は7名で個別に呼ばれ、前に呼ばれた人が不合格と聞いた直後に私の名前が呼ばれたので、恐る恐る向かいました。例の厳しい試験官の口から「Herzlichen Glückwunsch」(合格)おめでとうございますと言われた時には全身の力が抜け、その後の言葉はほとんど耳にはいってきませんでした。家に帰った後に実感し始めたのか、自然と涙があふれてきました。



国家公認ガイドの証

実際に初めてお客様をご案内したのはベルベデーレ宮殿になりました。思いの外緊張はしませんでした。が、単語をドイツ語で覚えた影響で日本語の名前が出ずに苦戦をしました。またご夫婦でいらしたお客様をご案内した際には「次回ウィーンに来る際はぜひもう一度ガイドをお願いします」と言われ、非常に嬉しい気持ちになりました。



緊張感漂う練習風景

なぜこのような職業に就きたかったのかと立ち返った時に、シンプルにウィーンの良さを皆様にお伝えしたいからだと思いました。ウィーンは歴史、音楽、カフェ等、様々な素晴らしい伝統的な文化

が残っています。しかし残念なことにウィーンでは特に日本語で案内できる国家公認ガイドの高齢化・減少が始まっています。その中で私ができることを考え、将来的にはガイディングの充実はもちろんのこと、お客様が現地に来なくとも受けられるようなPR活動にも力を入れていきたいと思っています。もし機会に恵まればSNSでの情報発信、執筆やオンラインでの公演等も視野に入れていきます。皆様にもその内お目にかかる機会を楽しみにしております。

今井謙 Instagram : austriaguide.ken